



GOVERNOR'S MONTHLY LETTER 2002-2003

10月ガバナー月信

No.4

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2760 2002年10月1日発行



長篠合戦図屏風

10月は、職業奉仕月間・米山月間です。

ガバナーメッセージ	2	派遣留学生帰国報告会	12
職業奉仕月間に寄せて	3	Rotexの集い	12
「座談会」 米山奨学制度は優秀な留学生の支援を通して、 国際交流と親善を図る日本独自のプログラムです。...	4	会員増強委員長会議	13
ガバナー公式訪問	8	クラブ米山セミナー	13
インターアクトクラブ海外研修派遣	10	文庫通信	14
		出席報告	15

国際ロータリー第2760地区 ガバナー 岡部 快圓

〒460-0011 名古屋市中区大須2-21-47 大須観音宝生院内

TEL 052-229-8110 FAX 052-232-1023 E-mail: governor02-03@rotary2760.org

Governor Message

ガバナーメッセージ

ガバナー 岡部 快圓

会長さん、幹事さん、会員の皆様お元気ですか。本年度は特別に、「ポリオ撲滅募金活動キャンペーン」が展開されますので、会員各位の格別のご支援をお願い申し上げます。

ポリオ・ウイルスは大変凶悪なウイルスです。その理由は、このウイルスが攻撃する対象の95%は5歳未満の子供たちです。私たちの社会の最も自己防衛力のない幼い子供たちが犠牲者となり、一生不自由な生活を強いられます。幼い犠牲者には何の罪もなく、刃向かったわけでもなく、判断が間違っていたわけでもなく、不注意だったわけでもありません。にもかかわらず、この幼子たちが苦しむのです。この病気の症状がまさにその凶悪性を表しています。

この凶悪なポリオ・ウイルスとの戦いは、1979年にフィリピンの600万の児童にポリオの予防接種をするという5ヵ年間の誓約でした。これが、保健、飢餓追放および人間尊重（3・H）プログラムの最初のプロジェクトで、国際ロータリーの75周年基金から補助金が授与されました。

1980年代初めに、ロータリーは史上最も意欲的なプログラムを計画し始めました。世界中の児童にポリオの予防接種をしようというプログラムです。

ロータリーが1億2,000万ドルを集めるという声明は、国連の40周年に当たる1985年の10月に発表され、1986年7月からスタートし、2年以内で、米貨2億4,700万ドルを集めることができ、1988年6月末で終了しました。

日本は募金目標が当時40億円と巨額のこともあり、R Iの承認を得てキャンペーン期間を5ヵ年と定め、1991年6月で終了し、約49億円の寄付金を集めるという大成功を取めました。

1988年から2000年までに、国際ロータリーとその財団、および私たちのパートナーの努力で、20億人以上の子供達が経口ポリオ・ワクチンの投与を受け、ポリオにかかったかもしれない約400万人の子供達が元気に歩き、遊んでいます。

1995年の規定審議会においてポリオ・プラスの目標は西暦2000年までにポリオを一掃し、その後2005年（ロータリー創設100周年）までに、ポリオの撲滅を証明することが採択されました。しかし、現時点で7ヵ国211件（2002年1月1日現在）の発症があり、この誓約を果たすには、今後、三つの障害が残っています。

- 1、2億7,500万米ドルの資金不足を補うこと。
- 2、すべての子供たちに手を差し伸べること。中には手を差し伸べることが困難な子供たちもいる。彼らは暴力に取り囲まれており、群集に紛れてしまっている。
- 3、誓約を持続すること。

2億7,500万ドルの内、世界のロータリーの目標が8,000万ドル、日本のロータリーが誓約したのが2割の1,600万ドル。1人あたり150ドル（日本の会員数で割った概数）を向こう3年間で誓約していただくのが当地区の方針です。

エチオピアの首都アジスアベバで、当時のグレン・キンロス会長が会長主宰会議と、研究会と、全国ポリオ予防接種の行事をすべて1つにまとめました。子供の子供に自ら参加する必要があると感じたからです。既にポリオ撲滅を果たした国々のロータリアンにとって、その合同会議は大変関心の高いものであり、大成功となりました。この会議で、松葉杖で立ち、あるいは椅子に座り、また地面に座ったりしているポリオで不自由な子供達がエチオピア大統領に歌を歌う光景は、聞く者の耳を突き刺しました。その歌は、彼らが友達を守ってほしいと懇願し、「大統領閣下、私たちにとってはもう遅すぎるのですが。」という言葉で始まったのです。

手遅れになってはいけません。



職業奉仕月間に 寄せて

地区職業奉仕委員会
委員長 関口宗男



- 1 ロータリーとは何か。決議23-34号の第1項は、ロータリーは、基本的には、一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務及びこれに伴う他人のために奉仕したいという感情とのあいだに常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は奉仕、—「超我の奉仕」の哲学であり、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という実践倫理の原理に基づくものであると規定しています。この考え方を職業生活で実践するのが職業奉仕です。職業奉仕が難しいと言われるのは実践倫理であるからです。
- 2 職業奉仕の実践の中で、職業というものを考えてみますと職業というのは、生計をたてる手段であると同時に世の為、人の為に役立つ仕事なんだということです。生計を立てる為の手段は自分の為でありますから利己性を持ちます。それから世の為、人の為に役に立つそういう仕事であるという事は、そういう世の為、人の為に役に立たない様な仕事は、これ職業とは言わない。職業はすべて世の為、人の為に役に立つものですが、その度合いの違いはありますが、結局それは、職業というものは世の為、人の為に役に立つという利他性があります。職業の中に利己性と利他性を合せ持っている、ロータリアンが奉仕の心ロータリーの心、即ち、利己よりも、利他を優先するというそうい

う心、それを職業生活で実践をしたら職業の利他性、つまり世の為、人の為に役に立つという度合い、これを促進する刺激、増長させるという事になります。そうすると、その職業の中の利他性、つまり世の為、人の為に役に立つというその要素が、大きくなり、お客さんは、当然に喜ばれ、満足し、そして、その人の職業の社会的評価が上がり信用がつく。その結果取引は増大して収益は上がるということになるわけです。ロータリアンが奉仕の心、ロータリーの心を実践すればするほど結局のところ収益が上がるという事になるわけです。これをHe Profits Most Who Serves Best、最もよく奉仕する者最も多く報いられるという原理になるわけです。だから職業奉仕の結果というのは、そういうふうに職業において奉仕の心を実践すればする程、収益が大きくなってよく儲かるというわけです。ただこれは現実ではありません。あくまでそうありたいということです。ドイツ語でゾルレンであってザインではないと。結局、ロータリーの金看板であります職業奉仕は、職業の中の利他性というものを大きくして、そのためにロータリアンの職業というのが社会的信用を得、地位を高めて結局のところ収益に結びつくということになりますから、そのロータリアンは倫理的な儲けが出来たという訳です。ロータリアンは、倫理的な方向、つまり世の為、人の為により役に立つというそういう仕事をする、その自分の仕事の中でそういう面を非常に力を入れてやるということによって利益、収益は必然的に後からついてくるといふ儲け方、これを倫理的ということができると思います。つまり倫理的な儲け方をすることになる。そこらあたりが、ロータリーの倫理性であるし、ロータリーの魅力であると思います。

ロータリー米山奨学委員会・米山学友委員会座談会

テーマ

「米山奨学制度」は優秀な 留学生の支援を通して、 国際交流と親善を図る 日本独自のプログラムです。

出席者 米山奨学委員会委員長：藤本 博之、副委員長：加藤 知成
米山学友委員会委員長：鈴木 茂久、副委員長：大西 弘高
進行係：地区副幹事 浅井 隆宣

司会：本日は「米山月間」ということで、お集まりいただきました。まずは米山奨学事業について、藤本委員長からざっとご説明いただけますでしょうか。

藤本：米山奨学会と呼ばれていますが、正式名称は「財団法人 ロータリー米山記念奨学会」です。ロータリー創始者である米山梅吉さんが創ったように思っておられる方も多いようですが、そもそも東京ロータリークラブが東南アジアの方を対象に奨学制度を創りたいと考えました。1952年、米山さんの名を冠し「米山奨学制度」が設けられたわけです。また、このプログラムは日本独自のものであり、約12万人の日本のロータリアンが寄付を行ない、それをもとに奨学金を支給し、さらに世話クラブやカウンセラー制度、奨学期間を終えた学友のための会まで支援する。そのトータルなものが、米山奨学事業、ということになっています。

司会：米山奨学事業のそもそもの目的とは？

藤本：優秀な留学生の支援を通して、国と国との相互理解、国際交流と親善を図る、というのが目的です。実は文部省でも海外からの留学生を10万人サポートしようという計画を打ち出しました。ところが費用の問題もあって現状は6万人程度。そこで民間にも協力を呼びかけたという背景があり、その目的は米山奨学会だけでなく、文部省全体のものであるわけです。留学生をお世話し、その方たちが母国に帰った後に日本

との橋渡しをして欲しい。だからこそ、我々も留学生に喜んでいただき、国と国との掛け橋になってもらえるような事業をやっていきたいですね。

大西：それでこれまでに1万2千名近くの方をお世話してきた、というわけです。

司会：学友会も昔からあるんですか。

鈴木：いや、途中からですよ。1971年に初めて台湾で創設され、1979年に韓国。出来たのは1985年の学友会関東が最初です。その後、関西が続き、学友会愛知が

発足したのは1997年6月です。現在では全国に19の学友会があり、海外を含めて21です。

大西：海外で先にできたってこと？

藤本：そう。奨学金をもらった方たちが母国に帰ってから創られたんです。

司会：なるほど、同窓会みたいなものですね。ところで具体的に当地区ではどの

くらいの数の留学生を支援し、どんな留学生を対象としているのでしょうか。

加藤：2002年5月現在の数字ですが、米山奨学生としては累計で11,217名。94カ国の留学生を支援してきました。当地区で現在サポートしているのが13カ国47名。全体では年間1,000名ほどです。最近の傾向では、アジアに限定せず、世界に開かれた米山、というカタチになっています。

司会：こういった基準で、どう対象者を選んでいるわ



藤本 博之

けですか？

加藤：かつては各ロータリークラブで推薦し、地区委員会で選考していたんですが、公平感を欠く、というご意見がありました。それで指定校制度を作り、大学からご推薦いただいた学生を委員会のメンバーがさらに選考する、という方法をとっています。

藤本：補足しますと、それまでは私費で来ている留学生がロータリーに直接、申し込んでいたんです。ただ、そうしますと多い時で応募者が200名ぐらいになってしまっていました。

大西：当時は選考をスタッフがやっておりましたし、ダンボールいっぱいの論文を副幹事6名で目を通したり、ガバナー事務所でも米山がいちばん大変でした。

藤本：そりゃあ、200名から30名強に絞り込むわけですから。そこで私の代から応募者は募集人員の3倍程度までにして、指定校制度を採用したんです。また、応募資格も、最近は国際親善に寄与するような人柄を重視するようになってきました。むろん、学業成績が優秀であることが基本ですが。

大西：大学からご推薦いただくだけあって、皆さん、論文を読ませていただいても本当に優秀です。勉強以外に最近では、異文化理解、コミュニケーション能力、地域交流・ボランティア活動など、そうした点についての優秀性も問われるようになりました。たとえば選

ばれた時点で奉仕への関心が低くても、それを育てていくのも奨学事業の役割のひとつなんです。

司会：どこの国の出身者がどの位の割合でいらっしゃるのか。また男女の比率はいかがでしょう。

藤本：基本的には一国集中しないよう、ひとつの国で募集人員の30%以内、10人までと考えています。学業成績だけで選ぶと中国、韓国、台湾に偏ってしまっていますが、最終的には日本語がどれだけ理解できるかが大切です。やはり言葉がわからなければ大学の講義も理解できないでしょうし、異文化理解やコミュニケーション能力の点においても日本語は重要なポイントです。また、当初はロータリーのある国の方、という条件をつけていましたが、先ほども申しましたように文部省全体の事業でもあるわけですから、そういう区別も外しました。男女の比率は半々ですね。こちらも学業成績だけだと、女性だけになってしまいそうですので(笑)。

司会：奨学金の金額はどのくらいなんですか？

加藤：基本的に大学院の博士・修士課程が月額15万円、大学の学部課程が月額12万円で2年以内ということになっています。しかし、たとえば学部で4年生から受け取った場合、卒業までの1年しか認められませんので、もし博士・修士課程を目指しているのであれば、大学院に入ってから受け取るべきであると教えてあげることが親切ですね。

藤本：奨学金を受け取れるのは1度だけで、2度目の申請はできないんです。

大西：ただ中国と韓国は学部は取りませんね？ その理由は何です？

藤本：まあ人数が多いから、偏らないようにしようということですよ。

司会：大学推薦制度の中で、そういう偏りを防ぐ方法は何があるわけですか？

大西：まず採用までの流れをご説明すると、有資格者が何名いるか、各大学ごとのリストがあるんです。現在、この地区では48大学で

1,365名ですが、ちなみに名古屋大学は679名、日本福祉大学は17名が有資格者です。そうした留学生の多い大学から指定校を選び、推薦者数を決定して、大学側になるべくバランスよく各国の方の推薦をお願いするわけです。

司会：最終的に各指定校から推薦された留学生を3分

の1に絞り込む、というわけですね。

鈴木：最近のご推薦くださる大学側の姿勢もかなり変わりましたよね。

加藤：感謝の集いなんかをやっておりまして随分、感じますよ。

司会：とおっしゃいますと、ロータリーの活動を理解していただけたということでしょうか。

大西：奨学生はもちろんそうですが、先生方にも随分、感謝していただいているのを、ひしひしと感じますよ。

鈴木：今年もね、中国の放送大学を作るということで学生が市場調査に行き、その資料を地域に還元しようと担当教授が向こうで学会を開いたんです。そうしましたら、今度はそれが国際学会にまで発展したという例がございます。奨学生が蒔いた種が大きな学会となり花開いた、ということですから先生方にしても感謝感謝、といったところでしょう。

司会：そうした国境を越えた広がりや結びつきは、ま



大西 弘高

さに米山奨学事業の目的とするところでしょうね。反面、問題点などはないのでしょうか。

大西：奨学金を貰って大学に行かない人もいますよね。

藤本：その場合、事実が判明した瞬間に支給はストップです。しかし、それもカウンセラーが大学と連携をとって事実確認するしかないですね。ちゃんと出席していますか、成績はどうですか、とか。

司会：大学側も推薦しているわけですから、ある程度のフォローはしていただけるんですか？

藤本：基本的には皆さん、素晴らしい方ばかりですし、担当教授もいますが、やはりカウンセラーが無関心でいるのは良くないでしょうね。

鈴木：具体的なことですが、ちょうど卒論を提出する時期、ラマダンのために一時帰国された留学生がいますね。それで大学関係者に卒論を託して帰ったんですが、その方が提出するのを忘れてしまった。結果、大学院にも行けるはずだったのですが、卒業もできなかった、ということが現実になりました。ですから大学側にそういう面倒まで期待するのは難しいことかもしれないですね。

加藤：しかし問題なのは、たとえば博士課程をとって期間内にドクターがとれないという場合です。

司会：ただ彼らも大人ですし、資格がとれないのはこの委員会の問題ではないような気がするんですが。

加藤：おっしゃる通り、直接的には関係ありませんが、クラブ米山へ申請するケースが増えるわけです。

司会：2年で取れない場合、さらに支援する制度があるわけですか？

藤本：いや、実際にドクターを取るには5年かかるんですよ。そのうちの2年をロータリーはサポートするわけですが、やはり5年も頑張ってきてとれないのは可哀想じゃないですか。そこであと1年ぐらいで取得できる見込みのある奨学生に対して、その間、延長して奨学金を支給する制度がクラブ米山なんです。

加藤：ただ、この場合は世話クラブが申込みを決定し、さらに半額を負担するわけですから、慎重にならないといけないと思います。

司会：特別米山奨学金というのもありますね。

藤本：それは主に博士号を取得した元米山奨学生や、韓国と台湾の学友会から推薦された方への奨学金制度です。実は先頃、全国の委員長さんとの会議で、こう

した奨学金制度以外に、金額を少なくともドクターを取得できるまでお世話してもいいんじゃないかというご意見も聞かれました。

司会：それでまた応援してあげられるといいですね。ところで学友会ですが、どういう形でメンバーになって、どんな活動をしているわけですか？

鈴木：奨学生の名簿は財団の方で管理しており、今年はどの方が卒業され、どれだけの人数が学友会に入る、というリストが財団からいただけます。今年はこの地区では10名入られました。

司会：しかし毎年、30人ぐらいが卒業されるんじゃないですか？

鈴木：帰国される方、日本で仕事をされる方、別の地区に行かれる方もいらっしゃいますので、平均すると3分の1くらいですね。また、活動としては、年度始めの7月に、学友と奨学生を含めて総会を開催します。学友が正会員、奨学生が準会員です。その後、親睦会を行ない、新入会員の歓迎会を行なうというのが地区の特長です。

司会：正会員と準会員が合同で行なう催しもあるんですか？

鈴木：その総会の他、年2回の企業見学会、忘年会と、大きな行事は年に4回あります。124名の学友会員の親睦と交流を図ります。

司会：平均年齢はどのくらいなのでしょう。

鈴木：当地区では米山奨学生が40歳未満ですので、わりと若いですね。30歳を越

すぐらいでしょうか。皆さん、学友の方の心情として、やはり感謝の気持ちから積極的に参加される方が多いですね。

司会：たとえば、国に関係なく、情報交換をしたりする姿は見られるんですか？

大西：それはロータリアンが意識して掻き混ぜてあげないと、やっぱり国別で分かれてしまいがちですね。

鈴木：そう。ですから役員の人員構成においても、会長はスイス、副会長はバングラデシュ、幹事は中国の方とバランスを考えるようにしています。

司会：では最後に、今後この委員会をこうしたい、逆に奨学生にこうして欲しい、というご意見などございましたらお願いします。

大西：去年、地区の学友委員会に入ったばかりなので、やはり長く続けることが必要な委員会だなあと感じています。学友会は特にそうです。奨学生一人ひとりの



加藤 知成

顔と名前を覚えないと務まらないです。しかし、ロータリーには毎年、変わらなきゃいけない原則があります。でも米山はどうなんでしょうか。可能ならこの委員会が好きで、継続してやらなければいけない気がします。

鈴木：そうですね。単年度で交替というのが原則とはいえ、顔と名前がくつつくまでは関わらないと、簡単にはこなせない仕事ですよ。

藤本：やはりどの委員会でもよくある話でしょうが、まず、委員長さんに任せておけばいいという意識では駄目ですね。それから各クラブの委員会はすっかり入れ替わってしまっても構わないと思いますが、地区の委員会はわかっている方たちでないと……。

大西：そうじゃないと奨学生もまとまらないでしょうね、きっと。

鈴木：総会が終わるとすぐに帰る会員も多くて、顔と名前がくつつかないじゃないですか。それで翌日、仕事にお礼の電話をいただくこともあるんですが、こっちは名前を聞いてもピンとこないもんだから、それが女性だったりすると胸がドキドキしましてね(笑)。しかし、顔と名前が一致してくるとコミュニケーションも図りやすくなりますし、総会でお会いしても気軽に声を掛けてもらえます。そういう人間的なふれあいこそ、大切なことじゃないかな。

藤本：じゃあガバナー事務所のスタッフで米山担当の方には、翌年、米山委員会に入ってもらえればいい。

一同：(笑)

加藤：いずれにしてもお世話をしてよく感じますのは、たとえば教科書問題にしろ、中国の方々が日本に來られ、現実を目の当たりにして偏った教育をされてきたことに気づく。そういう方もいらっしゃるんです。ですから米山の活動が、日本への理解を深めるきっかけとなれたことだけでも救われる思いがします。

藤本：それから今後の方針として、まず学友と奨学委員会は一緒に運営しておりますので、今年もそういう方向でやっていきます。ただ、昨年度までは学友会に関してはロータリアンが口を出さずに運営してきましたが、やはり地区から費用も出しておりますので、会計監査など、役員としてロータリアンも参加し、共に運営していく方針です。また、これまで奨学委員会としては寄付に関して、あまり積極的にお願いをするこ

とはありませんでしたが、実は寄付金が毎年3%ずつ減少しているんです。現在、米山奨学事業全体としての財産が24億円、そのうち20億円をロータリアンの寄付でまかなっており、年間約1,000名の留学生の奨学に使っています。しかし残りの4億ですが、金利が低く、基本財産を取り崩している状態です。ですから皆さんにも寄付をお願いしなきゃいけない。私自身は、寄付というものはお願いするものではなく、ロータリアンの皆さんが「よし、やっтарう」と自発的にされるものが基本だと考えておりますので、まずは米山奨学事業をご理解いただく。直接的に訴えるのではなく、そういう働きかけをすべきではないかと思います。いまま地区では年間1億円の寄付を頂戴していますが、一人当たりの平均寄付額が約16,000円。35地区の中でいちばん多いところは約26,000円で、当地区は11、12番目です。6,000人という規模から地区としての寄付額は大きなものになりますが、ロータリアンの皆さんのご理解が深まれば、その度合いに応じて寄付額も増えるの

ではないかと考えています。

加藤：やはり理解していただくには、もっとクラブ内での交流を図るべきではないでしょうか。たとえば奨学生が何を研究し、どう成果を挙げているか。そんな発表をクラブで聞く機会を設ければロータリアンの理解も深まるでしょうし、ぜひお願いしたいですね。

大西：奨学生本人の口から感謝の言葉を聞けるのは、ロータリアンにとってもうれしいことです。

加藤：そうすれば異文化理解という目的も、双方向に実現できるんじゃないかな。米山奨学事業ほどわかりやすい活動はないと思うんですよ。そういうことを委員会のメンバーだけでなく、クラブのメンバーにもわかっただけで寄付金ももっと集まるんじゃないでしょうか。

藤本：また、大学での勉強や研究だけでなく、そうしたロータリアンとの交流経験が、やがて奨学生たちの視野を広げ、将来の財産となっていくこともあるでしょう。ぜひ、ご理解のほど宜しくお願い致します。

司会：本日はお疲れさまでした。今後のますますのご活躍をお願いします。ありがとうございました。



鈴木 茂久

ガバナー公式訪問報告

名古屋東ロータリークラブ

会長：末岡 熙章 幹事：鈴木 建吾 会員数：98名

名古屋昭和ロータリークラブ

会長：杉田 等 幹事：平岩 光二 会員数：71名

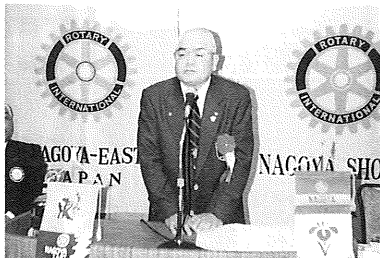
7月29日(月)／ウエスティンナゴヤキャッスル

名古屋東、名古屋昭和両クラブは7月29日(月)、岡部快圓地区ガバナー、伊藤宏地区幹事をお迎えしてガバナー公式訪問を開催しました。この公式訪問が岡部ガバナーの本年度最初の公式訪問でした。

事前の懇談会ではクラブからの報告の後、ガバナーから本年度のテーマである「慈愛の種を播きましょう」についてのさまざまなアドバイスをいただきました。

ガバナーの提唱により当日は「百万ドル例会」とし、ホテルの協力も得て通常の例会と食事の内容を変え千円安くしていただきましたが、この「百万ドル例会」は会員からはおおむね好評でした。

それにもまして、ガバナーの慈愛に満ちた人柄に触れることができ、大変有意義な例会となりました。



名古屋瑞穂ロータリークラブ

会長：近藤 雄亮 幹事：高須 洋志 会員数：83名

名古屋南ロータリークラブ

会長：鈴木 輝彦 幹事：嶺木 昌行 会員数：121名

8月1日(休)／ヒルトン名古屋

ガバナーの最も重要な使命の一つが、R I 会長の年度方針と、当年度の活動指針を伝えることにあるとすれば、岡部ガバナーの卓話はその役割を十二分に果たしたものと確信します。すでに多くの会員が知るところとなった少年との出会いの逸話を通して、ビチャイ・ラタクルR I 会長の想いが、われわれ会員の胸にストレートに届けられたと感じました。ガバナー訪問によって、会員一人ひとりの自発的な行動を重視される当年度の基本姿勢を、南・瑞穂両クラブの会員が等しく認識するところとなったと思います。後はわれわれが行動する番です。



半田南ロータリークラブ

会長：榊原 宏 幹事：石川 勝彦 会員数：58名

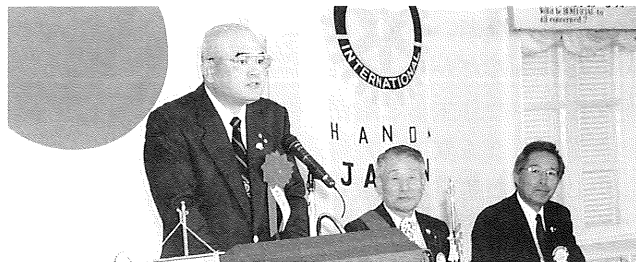
半田ロータリークラブ

会長：前田 捷彦 幹事：伊東 良夫 会員数：70名

7月30日(火)／レストラン白山

当日は猛暑の中、岡部ガバナー、伊藤地区幹事をお迎えし、半田南RCのホストで行われました。道路混雑を予想して早めにお出かけになられたため、私どもが会場に到着と同時に見えになり、まず度肝を抜かれました。懇談会では、地区大会の準備状況、会員拡大等について十分な討議、懇談が行われました。

例会においては、乾杯の代わりにバストガバナー松本宏君が歓迎の挨拶をし、100万ドル例会の主旨に賛同申し上げカレーライスとし、食事代の一部を寄付させていただきました。



尾張旭ロータリークラブ

会長：早川 正男 幹事：箕輪 良孝 会員数：47名

瀬戸ロータリークラブ

会長：大竹 一義 幹事：加藤五津美 会員数：83名

瀬戸北ロータリークラブ

会長：余語 彦次 幹事：戸田 敦信 会員数：74名

8月2日(金)／グレイセル

8月2日瀬戸・瀬戸北・尾張旭合同例会にて岡部ガバナーならび伊藤地区幹事の公式訪問をいただき、各クラブの諸問題に対し今期のガバナーの方針である、地区ができるだけ各クラブのお手伝いをするという立場で適切なアドバイスをいただきました。170名の出席の例会では、進行がスムーズで、ガバナーから30分以上の卓話をいただき、R I テーマである「慈愛の種を播きましょう」についてその具体的な展開についてガバナーの情熱が会場に伝わっていました。



名古屋中ロータリークラブ

会長：山口 道夫 幹事：楠 吉史 会員数：145名

8月5日(月)／名古屋観光ホテル

8月5日、まさに盛夏の中、岡部ガバナー・伊藤地区幹事をお迎えしてガバナー公式訪問が開催されました。例会前の会長幹事懇談会では、本年度の特徴である地区の各委員会及びいろいろな方々の各クラブへの協力体制を盛んにお話になられ、大変力強い印象を持たせていただき、また例会時のラタクルR I会長のロータリーを体験するお話にはとても感銘を受け、今後のロータリー活動の大きな指針をお示しいただき、心より感謝申し上げます。



豊橋ゴールデンロータリークラブ

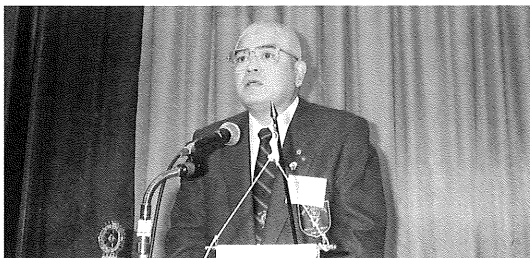
会長：又平 雅之 幹事：谷村 泰裕 会員数：72名

豊橋東ロータリークラブ

会長：小林 佳雄 幹事：鈴木準之助 会員数：51名

8月9日(金)／ホテル日航豊橋

8月9日(金)、岡部ガバナー、伊藤地区幹事をお迎えして、豊橋ゴールデンRCと豊橋東RCの合同例会が開催されました。事前の懇談会ではガバナーよりR I会長方針の趣旨についてご指導を受けました。その中でも会員増強については退会防止と女性会員の入会に関して意見交換をし、今後の意義ある会員増強につなげることになりました。例会では、ガバナーよりR I会長のすばらしさと、本年度のテーマについてのお話がありました。また、最後にポリオについての協力要請を受け例会を終えました。



西尾ロータリークラブ

会長：尾崎 隆爾 幹事：筒井 兼之 会員数：78名

一色ロータリークラブ

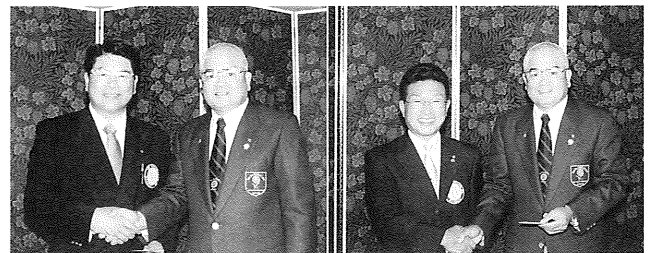
会長：松井 寛治 幹事：藤井 真琴 会員数：42名

西尾KIRARAロータリークラブ

会長：下谷 七郎 幹事：磯貝総一郎 会員数：61名

8月6日(火)／西尾平安殿

酷暑の8月6日、西尾、一色、西尾KIRARAの3RC合同のガバナー公式訪問が西尾平安殿で開催されました。3クラブの会員130人が出席。岡部ガバナーがR I会長ビチャイ・ラタクル氏の体験を紹介されると、思わず涙ぐむ会員もありました。また、ガバナー懇談会で西尾RCの新入会員2人を会場に招き、記念撮影と激励の握手をしていただきました。2人にとっては生涯忘れられない一日になったことでしょう。



刈谷ロータリークラブ

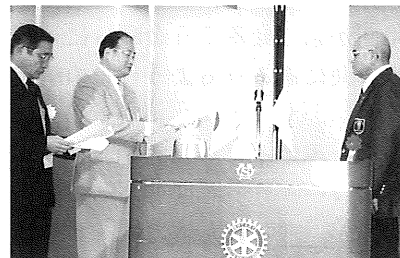
会長：神谷 龍司 幹事：杉浦世志朗 会員数：92名

知立ロータリークラブ

会長：加藤 量平 幹事：杉浦 知博 会員数：64名

8月19日(月)／知立セントピアホテル

岡部ガバナー、伊藤地区幹事をお迎えして、両クラブの公式訪問が開催され、懇談会では、クラブ運営に関して地区が迅速に的確にサポートしていただけたという温かいご指導をいただきました。また合同例会においては、ガバナー提唱の100万ドル例会を開催し、R Iのポリオ撲滅のため等の寄付に充当するよう、例会の食事をカレーに替えて差額をガバナーに贈呈しました。卓話においては、ビチャイ・ラタクルR I会長のお人柄と、今、一人ひとりのロータリアンが慈愛の心を持ち、クラブをはじめいろいろなところで種を播く



必要性を強調され、私どもも改めてロータリーの原点を見つめ直す良い機会であったと思っています。本当にありがとうございました。

第15回 インターアクトクラブ 海外研修派遣

「ブリスベーン」 研修報告

地区インターアクト委員会 委員長
岩瀬 康彦



第15回インターアクト海外研修派遣は、7月25日から8月3日までの10日間、前年に引き続きオーストラリア・ブリスベーン市を中心に行われました。

今回特筆すべきことは、前回までの反省評価に従い、参加者の自主性・主体性をできるだけ尊重し、「自分たちで考え行動していく研修」により近づけていく努力がされたことでした。従来ややもすると、ロータリアンや引率顧問の敷いたレールの上に乗っかっている傾向が強かった部分をできる限り是正し、生徒の願いや行動を少しでも前面に出てくるためのさまざまな工夫がされました。

また、毎回の報告書を見ても明らかなように、参加メンバーが最も大きな刺激を受けるのはホームステイ家族との「ふれあい」にあると考え、ホームステイ家族と少しでも多くの時間が過ごせるよう金曜日に到着し、土・日曜日の週末を共に過ごせるよう日程の調整を行ったことです。

もう一つの願いであった現地インターアクトクラブとの共同プログラムは、ロータリー年度替わりに伴う先方委員長引継ぎの問題が、前年秋からのメール交換

にもかかわらず実現しませんでした。しかし、代替プログラムとして広大な植物園を訪れ、芝生の上で研修期間中唯一のゆったりした時間を楽しむという思わぬ収穫ともなりました。

（ 参加者 ）

研修に参加したのは、地区インターアクト15クラブ（1クラブ不参加）から推薦を受けた36名（男子8名、女子28名）。団長には豊田工業高等専門学校IAC顧問を長年担われている神谷昌明先生、副団長に県立阿久比高等学校IAC顧問で若手の岩井玲子先生にお願いし、アドバイザーとして岩瀬康彦地区インターアクト委員長、堀井武副委員長、谷川修委員が同行し、全体調整、渉外、連絡、会計、撮影・記録等の役割を分担しました。

事前研修の企画や進行から、現地プログラム等での英語による生徒代表スピーチまで、すべてメンバーの自発参加による運営方式は、「各クラブ代表者の寄せ集め」だったにもかかわらず、短時間の間に仲間意識を

高め、良きチームワークを醸しだし、大きな成功を収めました。また、引率者5名の協力意識も高く、連夜の反省評価会も和気あいあいと極めてスムーズに運ぶことができました。

（ ホームステイ ）

海外研修の成否の鍵は、ホームステイの適否にあり、たとえ短期間といえいつまでも思い出に残るものです。幸いに今回は、前年度と同地域のホームステイ・ネット



ワークが受け入れてくれ、「オーストラリアの良さは郊外にあり」を実証してくれるような環境に恵まれたところでした。

到着当日、ホームステイ

家族の迎えにくる時間が迫ってくるにつけ、和やかに談笑していたメンバーたちが無口になり、不安と緊張に包まれていく様は毎回変わりません。それが数日もすると、笑顔をもってホームステイ家族と語り、家族の一員になりきって行動している姿こそ、若者たちの持つ順応性の高さを示すとともに、その一人ひとりの心の変化の過程そのものが、研修の最大の目的であるかもしれません。

（ 研修プログラム ）

各研修プログラムは、ホームステイ地域に隣接するミッチェルトン州立高校を中心に展開されました。午前中は3クラスに分かれての英語レッスン、午後は市内観光、乗馬体験、現地高校訪問、植物園見学などのアクティビティです。また、一日かけてワーナーブラザースの「ムービー・ワールド」へも出かけました。各活動の感想はメンバーの報告内容にゆずるとして、特記すべきは、現地校生徒たちのホスピタリティあふれる対応でした。休み時間ごとに積極的に日本人生徒の輪の中に入り、英語と片言の日本語でコミュニケーションをとる様は、同世代の日本の若者にぜひ伝えたい姿勢でした。また、ともすれば「異質分子」となりかねない日本人メンバーを、「仲間」として受け入れてくれている学校の対応も素晴らしいものがあります。

（ フェアウェルパーティー ）

大騒ぎ(?)をしながら着付けをした浴衣や甚平に身を包んで、(唱歌)「花」の二部合唱でパーティーは開始されました。代表者のスピーチ、ジュエチャーソング、手作りのアルファベットカルタとり等プログラムが進み、各ファミリーへの感謝のメッセージと花の贈呈の時は、涙・涙・涙……。でも、今回の研修に限って言えば、充実した時を過ごすことができた満たされた涙を流した人が多かったと確信しています。明日を担う若者たちに、生涯忘れ得ぬ感動体験と成長への契機を、これほどまでに提供できる海外研修体験の灯をいつまでも続けていきたいと思う瞬間です。

地区のロータリアン、提唱ロータリークラブの支援、事前研修の講話から出発式に空港まで駆けつけていただいた岡部快圓ガバナーや地区役員の皆さまの理解、また学校関係者や保護者など実に多くの人々に支えられて、この意義あるプログラムが実施されていることを改めて憶え、心より感謝申し上げます。

第15回インターアクト海外研修、多くの成果を得て無事終了しました!! ありがとうございました。



2001~2002 派遣留学生帰国報告会

地区青少年交換委員会 委員長 大谷和雄

2001~2002年に各国へ派遣していた留学生たちも、3月、8月中旬までに無事帰国いたしました。この留学生たちによる「帰国報告会」が、8月24日、岡部ガバナー、須賀地区国際奉仕委員長、伊藤地区幹事、横井地区副幹事のご臨席を得て、盛大に行われました。各クラブから会長、国際奉仕委員長、カウンセラー、受入留学生、派遣候補留学生、関係のご父母など190余名の参加でした。

派遣国については、青少年交換の始まった当初は、アメリカ、カナダ、オーストラリアの3国でしたが、現在は、



台湾、ブラジル、フランス、フィンランドの7か国となりました。これは世界大会の直前に行われる青少年交換会議に委員が出席され、知己を求め交換先を広げようと努力された賜物です。

当日、急病で欠席した学生もあり、13名が報告いたしました。印象が強かったのは、高校時代の1年間の留学生活は、得がたい経験であり、素晴らしい成長ぶりということです。いろいろなつらく苦しい連続を楽

しさに変えていました。その陰には、ホストファミリーの励まし、友人の後押し、ホストクラブの皆さんのお力添えなど多くの皆さんのご支援がありました。留学生は感謝のことばの連続でした。言葉が通じず、ホームシックになりかけた時、お母さんの一言で立ち

直りましたと最後に報告した牧野さんは、「私は成人の暁にはロータリアンになる」。このようにお世話いただいたロータリアンのことが忘れられないのです。



第11回 Rotexの集い

Rotex担当 神田 憲

同時進行でRotexの集いが開催されました。1968年に当地区の青少年交換プログラムがスタートして以来、34年間にこのプログラムを利用し海外留学をした高校生は約365名で、派遣先国は11ヶ国に渡ります。その記念すべき初めての集い—卒業生の会—to 20人が参加をし、「2760地区Rotexの会」として立ち上がりました。彼等は留学経験を活かして、オリエンテーション・交流会等で派遣候補生に的確なアドバイスを与えたり、また受入留学生の良き相談相手になって頂いて居ります。今日に至るまでは帰国後1年間だけロータリーの諸プログラムに参加をして頂いておりましたが、貴重な経験をした彼等をそのま



ま終わらせるのはいかにもモットイないので、先ず年2回程度の親睦から始め、将来の展望を見出すべく検討を計る事になりました。2004年の世界大会が大阪で開催されますが、諸外国からの来訪ロータリアンの案内役として、留学で得た彼等の語学力が必要とされ、今、全国でRotexの会が立ち上がっています。来年の4月には全日本のRotexの会が青森で開催され組織化されようと考えられています。

今後一人でも多くのRotexが組織に参加をし、将来のロータリアン候補の一員として、その活動が社会に貢献出来るよう見守りたいと思います。

会 員 増 強 委 員 長 会 議

地区会員増強委員会 委員長 光岡 朗

8月3日名鉄グランドホテルで、会員増強委員長会議を開催した。地区会員増強委員・クラブ会員増強委員長約100名を、6グループに分け、討論を行なった。当日の多数意見は次のとおりであった。

①新会員の増強関係

数だけの増強に関しては、抵抗がある。

経費を節減、会費を安くし、入りやすくする。

②退会防止関係

ロータリーの内容を入会前に明瞭に説明する。

仲間意識を持てる雰囲気作りをする。

楽しい例会が大切である。

③女性会員関係

入会に抵抗はない。女性会員を薦める意見が多かった。

ク ラ ブ 米 山 セ ミ ナ ー 開 催 さ れ る

地区米山奨学委員会 委員長 藤本 博之

秋の気配を感じ始めた8月20日(火)キャッスルプラザホテルにて標記セミナーが開催された。

岡部地区ガバナーのあいさつの力強さに一気に本題のセミナーに突入した。

1. 米山奨学委員会の活動と役割

2. 奨学生の選考と奨学制度

3. 米山奨学生学友会(愛知)

それぞれのテーマについて説明の後、米山奨学事業の現状と本日のセミナーの核心について、加納泉理事から懇切丁寧な講評をいただいた。

例年のセミナーは9月末に開催されていたが、年初の早い時期の方が効果的と考えてこの時期となった。また、最近の米山奨学会への寄付の減少が憂慮されていることから、今回初めて一人あたり年間¥20,000.-という寄付目標も話題にした。



Q

今年度地区では世界社会奉仕活動をしないのですか？

A

今迄通り活動しています

地区世界社会奉仕委員会は大きく分けて次の3つの活動をしています。

- (1) 天災・人災などに対する人道的支援
- (2) 地区対地区のWCS活動
- (3) クラブ対クラブのWCS活動のサポート
(御質問書に依る地区WCS委員会に一任クラブ)

今後この中で(2)の活動の内、フィリピン3800地区、3810地区、タイ3360地区との間で昨年度まで続いていた愛知奨学基金の寄付活動だけ(10年間の約束ということで昨年度が10年目あたり)3地区との話し合いの結果、終了という事になりましたが他の地区対地区のWCS活動は行っています。

地区世界社会奉仕委員会
委員長 榊原 正治

次期ガバナーノミニーに 大島宏彦氏が決まりました

大島 宏彦 1934年（昭和9年）4月26日生

所属クラブ 名古屋ロータリークラブ
 職業分類 新聞発行
 勤務先・役職名 中日新聞社 取締役会長
 所在地 〒460-8511 名古屋市中区三の丸一丁目6番1号
 TEL (052) 201-8811 FAX (052) 231-4395



主な経歴

1957年3月 東京大学法学部 卒業
 1957年4月 中部日本新聞社 入社
 （1971年9月 中日新聞社と改称）
 1968年6月 中部日本新聞社 ワシントン特派員
 1979年6月 中日新聞社 取締役
 1987年6月 中日新聞社 取締役社長
 2001年6月 中日新聞社 取締役会長

ロータリー歴

1985年11月 名古屋ロータリークラブ 入会
 1990～1991年度 プログラム委員長
 1993～1994年度 一般広報委員長
 1999～2000年度 会長エレクト
 2000～2001年度 会長
 2001～2002年度 直前会長



文庫通信

180号

「ロータリー文庫」は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして、1970年に創立された皆様の資料室です。

ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、1万9千余点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧はもちろん、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。

クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。以下資料のご紹介をいたします。

地区大会特別講演より

- ◎『いま日本、日本人を考えるー欧米亜比較の中でー』
五十嵐公利 2002 14 p (D.2730地区大会)
- ◎『日本は再生する』
加納時男 2002 17 p (D.2840地区大会)
- ◎『21世紀の世界ーその問題点と展望』
明石康 2002 5 p (D.2830地区大会)
- ◎『「日米中口」四重奏の不協和音』
宮本信生 2001 9 p (D.2500地区大会)
- ◎『IT革命によって変わるビジネスと生活』
軽部征夫 2002 20 p (D.2720地区大会)
- ◎『21世紀の世界と日本ー地方から見てー』
長谷川慶太郎 2002 21 p (D.2760地区大会)

- ◎『日本経済のゆくえ』
水谷研治 2002 16 p (D.2630地区大会)
 - ◎『福祉はわが家から』
西川きよし 2002 7 p (D.2670地区大会)
- [すべての申込先：ロータリー文庫（コピー）]

ロータリー文庫

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-3 abc会館7F
 TEL (03) 3433-6456 FAX (03) 3459-7506
<http://www.rotary-bunko.gr.jp>
 開館/午前10時～午後5時 休館/土・日・祝祭日

新しい仲間

田中 英夫（犬山）	猪村 恭明（名古屋東山）	浮貝 文夫（名古屋西南）	羽田野道明（名古屋栄）
江崎 審（名古屋東山）	金田 秀和（名古屋東山）	石川 尅巳（名古屋西）	大野 良之（尾張旭）
伊藤 司郎（名古屋東山）	佐藤 敏夫（名古屋東山）	望月 宏秋（名古屋西）	茶谷 英志（東知多）
	渡邊 万里（名古屋東山）	大杉 誠（名古屋西）	松任 徹治（豊橋南）
	上田富士男（名古屋南）	石河 隆（名古屋栄）	
	土岐 道雄（名古屋西南）	榊原 博（名古屋栄）	

訃報 謹んでお悔やみ申し上げます

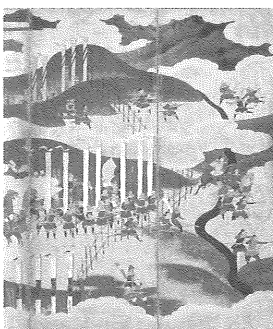
岩田 玖也（名古屋南） 深田三太夫（岡崎） 中村 正明（豊川）

会員数及び出席報告 (平成14年8月分)

分 区	クラブ名	会 員 数		入 会		退 会		例 会 数	8月 出席率	女 性
		2002年 7月1日	2002年 8月末日	8月	累計	8月	累計			
南 尾 張 分 区	半 田	70	70	0	0	0	0	4	100.00	4
	常 滑	59	63	1	4	0	0	4	95.28	0
	東 海	55	55	0	0	0	0	4	87.73	3
	東 知 多	62	63	0	1	0	0	5	94.62	0
	半 田 南	58	58	0	0	0	0	3	98.13	1
	知 多	36	39	3	3	0	0	3	91.27	0
	6RC	340	348	4	8	0	0	23	567.03	8
西 尾 張 分 区	一 宮	80	79	1	1	1	2	4	99.33	0
	津 島	80	80	0	0	0	0	4	97.46	1
	尾 西	42	41	0	0	1	1	3	94.30	0
	稲 沢	65	65	0	0	0	0	3	86.67	0
	あ ま	93	93	0	0	0	0	3	97.75	0
	西春日井	40	41	1	1	0	0	3	100.00	2
	尾張中央	51	51	0	0	0	0	3	91.63	0
	一 宮 北	63	62	0	0	1	1	4	96.35	0
	一宮中央	64	63	0	0	0	1	4	95.57	5
	9RC	578	575	2	2	3	5	31	859.06	8
東 尾 張 分 区	瀬 戸	82	83	0	1	0	0	4	100.00	3
	犬 山	84	85	0	1	0	0	3	100.00	0
	江 南	67	66	0	0	1	1	4	96.34	1
	小 牧	70	71	1	2	1	1	3	87.77	1
	春 日 井	80	80	0	0	0	0	4	99.01	4
	尾 張 旭	46	47	0	1	0	0	4	100.00	0
	名古屋空港	54	54	0	0	0	0	3	100.00	0
	瀬 戸 北	74	74	0	0	0	0	3	100.00	3
	岩 倉	27	25	0	0	2	2	3	92.59	0
	豊山一城北	35	37	0	2	0	0	3	85.08	1
	愛知長久手	20	20	0	0	0	0	3	76.70	1
	11RC	639	642	1	7	4	4	37	1037.49	14
西 名 古 屋 分 区	名 古 屋	197	208	4	12	1	1	3	96.48	0
	名 古 屋 西	118	122	3	5	1	1	4	94.47	0
	名 古 屋 南	121	121	1	2	1	2	4	99.17	0
	名古屋みなと	99	100	0	2	1	1	4	100.00	0
	名古屋東南	81	83	0	3	1	1	3	96.04	5
	名 古 屋 中	145	145	0	0	0	0	3	99.43	0
	名古屋瑞穂	81	83	0	2	0	0	4	97.46	0
	名古屋大須	68	68	0	0	0	0	4	97.19	0
	名 古 屋 栄	80	83	0	3	0	0	3	100.00	0
	名古屋名駅	101	104	3	3	0	0	3	96.24	2
	名古屋名南	80	80	0	0	0	0	3	99.10	14
	名古屋西南	55	57	2	2	0	0	4	96.64	9
	12RC	1226	1254	13	34	5	6	42	1172.22	30
平均出席率		79	96.3801							

分 区	クラブ名	会 員 数		入 会		退 会		例 会 数	8月 出席率	女 性
		2002年 7月1日	2002年 8月末日	8月	累計	8月	累計			
東 名 古 屋 分 区	名 古 屋 北	105	107	1	2	0	0	4	98.88	0
	名 古 屋 東	98	98	0	0	0	0	3	94.94	0
	名古屋守山	69	72	1	3	0	0	3	94.92	6
	名古屋和合	99	101	0	2	0	0	3	100.00	0
	名古屋名東	75	75	0	0	0	0	3	100.00	6
	名古屋名北	56	55	0	0	0	1	3	99.19	7
	名古屋千種	69	70	0	1	0	0	3	96.88	6
	名古屋昭和	71	71	0	0	0	0	3	99.51	0
	名古屋錦	41	40	0	0	0	1	3	100.00	8
	名古屋東山	58	64	2	6	0	0	4	94.01	1
	10RC	741	753	4	14	0	2	32	978.33	34
東 三 河 分 区	豊 橋	118	118	0	0	0	0	4	97.26	4
	蒲 郡	68	69	0	1	0	0	4	94.00	0
	豊 橋 北	105	105	0	0	0	0	3	97.87	2
	豊 川	75	74	0	0	1	1	3	97.28	0
	田 原	70	71	0	1	0	0	4	93.87	1
	豊 橋 南	68	69	0	1	0	0	4	96.43	0
	新 城	68	67	0	0	1	1	4	93.45	0
	渥 美	43	43	0	0	0	0	3	86.49	0
	奥 三 河	35	35	0	0	0	0	5	91.40	3
	豊川宝飯	58	60	1	3	0	1	3	94.44	0
西 三 河 中 分 区	豊橋ゴールドン	71	72	0	1	0	0	3	93.72	0
	田原パシフィック	71	71	0	0	0	0	4	95.71	0
	豊 橋 東	51	51	0	0	0	0	3	100.00	0
	13RC	901	905	1	7	2	3	47	1231.92	10
	岡 崎	109	109	0	0	0	0	3	99.67	0
	豊 田	85	89	0	4	0	0	4	98.91	0
	岡 崎 南	108	109	1	1	0	0	4	98.17	3
	豊 田 西	97	100	0	4	1	1	3	99.96	0
	岡 崎 東	90	91	2	2	1	1	3	99.13	1
	豊 田 東	85	85	0	0	0	0	3	98.12	0
西 三 河 分 区	岡崎城南	75	76	0	1	0	0	3	98.67	0
	豊田三好	27	27	0	0	0	0	3	94.00	3
	豊 田 中	57	56	0	1	1	2	4	100.00	4
	9RC	733	742	3	13	3	4	30	886.63	11
	刈 谷	92	90	0	0	2	2	3	100.00	0
	安 城	71	71	1	1	1	1	4	93.18	1
	西 尾	76	78	0	2	0	0	3	100.00	1
	碧 南	76	80	0	4	0	0	3	99.49	0
	一 色	42	42	0	0	0	0	4	100.00	0
	高 浜	48	49	0	1	0	0	3	99.20	3
西 三 河 分 区	知 立	64	64	0	0	0	0	3	94.82	0
	西尾KIRARA	61	61	0	0	0	0	5	96.99	0
	三河安城	49	49	0	0	0	0	3	97.67	2
	9RC	579	584	1	8	3	3	31	881.35	7
	地区合計	5737	5803	29	93	20	27	273	7614.03	122

地区内クラブ数 79RC	2002.7.1 会員数	5,737名	増加会員数 (累計)	93名
	当月末会員数	5,803名 (内女性122名)	減少会員数 (累計)	27名
	当月平均出席率	96.38%	差引純増会員数 (累計)	66名



表紙を語る

長篠合戦図屏風

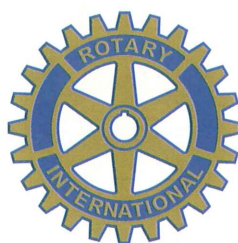
桃山時代

名古屋市瑞穂区 名古屋市博物館蔵

天正3年(1575)、信長と家康の連合軍は、武田勝頼の騎馬軍を、奥三河の長篠で向かい討ちました。この戦いは3000挺の火縄銃を効果的に利用した戦いとして広く知られています。ポルトガル船が種子島に火縄銃を伝えたのが1542年。わずか30年余りの間に、鉄炮の国内生産ができるようになったのも驚きですが、実戦に活用した信長の器量も当時の戦国大名を驚かしたことでしょう。

長篠の合戦図は徳川美術館の所蔵品がよく知られていますが、この屏風はもう少し古い様式です。馬防柵の後方で金の大扇子を立てるのが家康の部隊で、信長の本隊ははるか後方に位置しました。

(名古屋市博物館 学芸員 鳥居和之)



ROTARY
INTERNATIONAL
DISTRICT 2760

国際ロータリー第2760地区
ガバナー 岡部 快圓

〒460-0011 名古屋市中区大須2-21-47 大須観音宝生院内
TEL 052-229-8110 FAX 052-232-1023
URL : <http://www.rotary2760.org>
E-mail : governor02-03@rotary2760.org
